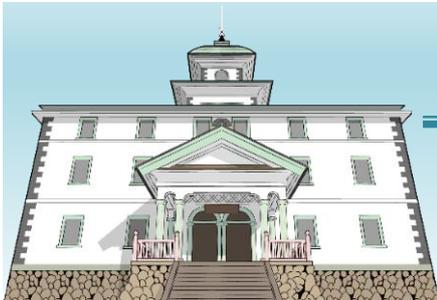


いわた 文化財だより 第198号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和3年9月1日発行

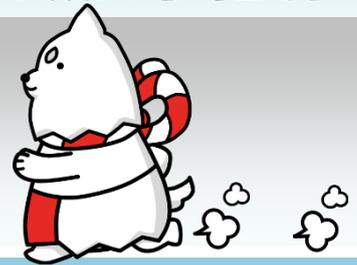
目次

- 旧見付学校 企画展と常設展示紹介・・・P1～2
- 「磐田市文化財保存活用地域計画」が
県内で初めて国の認定を受けました・・・P3
- 第2弾開催中 歴史文書館1階展示・・・P4
- 『磐田の縄文時代も見逃せない!!』渡邊武文 P4



旧見付学校 企画展とリニューアルした 常設展示紹介

今月号の特集は、旧見付学校で開催中の企画展『学制』公布150年 学校制度の始まりと令和の教育のみどころと、リニューアルした3階展示室と遊びのコーナーをご紹介します。

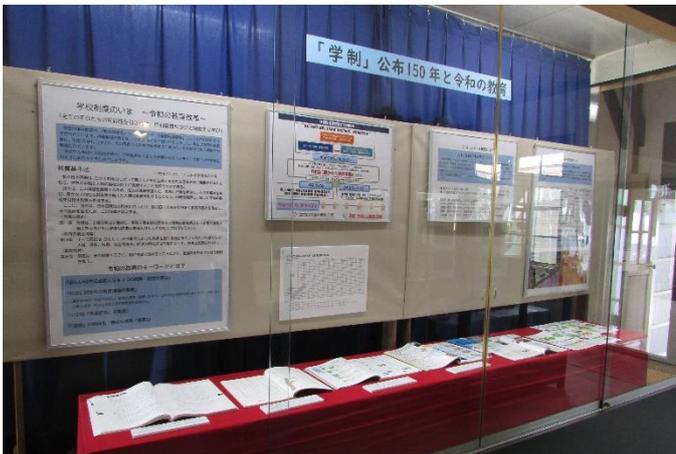


©磐田市

令和4年3月31日まで!

企画展『学制』※公布150年 学校制度の始まりと令和の教育

来年『学制』公布から150周年を迎えること、昨年度から令和の教育が始まったことを受け、旧見付学校1階西側展示室にて企画展「学校制度の始まりと令和の教育」を開催しています。※日本最初の近代的な学校制度を定めた教育法令。



展示室の様子

みどころ② 今と昔の教科書

今回は、明治時代に教科書として使用された実物の書籍や、昭和、平成で使用された教科書、現在学校で使われている教科書も展示しています。

また、磐田市内の各小学校の校舎の変遷も写真で紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

みどころ① 今と昔の教育を解説

学校制度の始まりである明治5年（1872）の『学制』と令和の指導要領改訂や、国や磐田市の施策など、現在の教育を比較する展示をおこなっています。

『学制』とはどのような趣旨で定められたのか、パソコンやタブレット端末を活用したICT教育とは何か、磐田市の小中一貫教育施策についてなどを図や写真とともに解説しています。



明治時代に教科書として使用された書籍

3階展示室と昔の遊びのコーナーをリニューアルしました！

旧見付学校 3階の民具の展示コーナーと昔の遊びのコーナーをリニューアルしましたのでみどころをご紹介します。



魚を捕る道具の展示

みどころ③ 作業道具と生活の道具

3階西側の民具展示コーナーでは、「魚を捕る」「米を作る」「藁を編む」「糸を紡ぐ」といったテーマごとに作業道具を展示しました。

魚を捕るための「たも」「三角網」や、米を収穫した際に使う「千歯こき」などを展示しています。

また、展示室の中央には、「古民家」の内部を再現するように生活用品を配置しました。

かまどの周辺には、「羽釜」や「七輪」、「火消しつぼ」などを、畳の間には「ちゃぶ台」「葛籠」「火のし」「手回し扇風機」「足踏みミシン」などを展示しました。

どのように生活していたのか、今の生活用品、生活家電との違いを感じてみてください。



畳の間（手前）とかまど（奥）

みどころ④ 広々とした昔の遊びコーナー



昔の遊びコーナー

3階東側は、小さなお子さんたちもゆっくり時間を過ごせる昔の遊び専用コーナーにしました。

「あやとり」「福笑い」「お手玉」「竹とんぼ」や、「紙芝居」「折り紙」を自由に楽しむことができます。(感染症の状況によってはご利用いただけない場合もございます)

遊び専用コーナーの黒板には、今月から城山中学校美術部による黒板アートも予定しています。ぜひ、お越しください。



<問い合わせ>
旧見付学校

入館無料

見学時間：午前9時～午後4時30分

休館日：月曜日、祝日の翌日、年末年始

〒438-0086 磐田市見付 2452

TEL&FAX 0538-32-4511

新型コロナウイルス感染症対策をして
ご来場をお待ちしています



「磐田市文化財保存活用地域計画」が 県内で初めて国の認定を受けました

市内には、遠江国分寺跡や旧見付学校、見付天神裸祭等の国指定文化財が8件、善導寺大クス、府八幡宮楼門などの県指定文化財が18件、その他市指定文化財が131件など所存する、数多くの文化財があります。

近年、少子高齢化が急速に進み文化財の保存継承の担い手が不足し、文化財が失われる心配が高まっています。

そこで、文化財課では、指定文化財だけでなく、磐田市の歴史文化・生活文化を作り上げているすべてのものを“地域の宝”として保存活用していくために、課題・方針・措置を整理し、「磐田市文化財保存活用地域計画」を作成しました。

地域計画とは

平成31年4月に施行された改正文化財保護法に基づいて、市が目指す目標や中長期的な取り組み内容を明らかにする、文化財の保存・活用に関するアクションプランです。

令和元年度から作成を開始し、文化庁、県の指導のもと、作成協議会での協議、文化財保護審議会での審議を経て、今年の3月にパブリックコメントを実施し、7月16日に静岡県内で初めてとなる文化庁の認定を受けました。

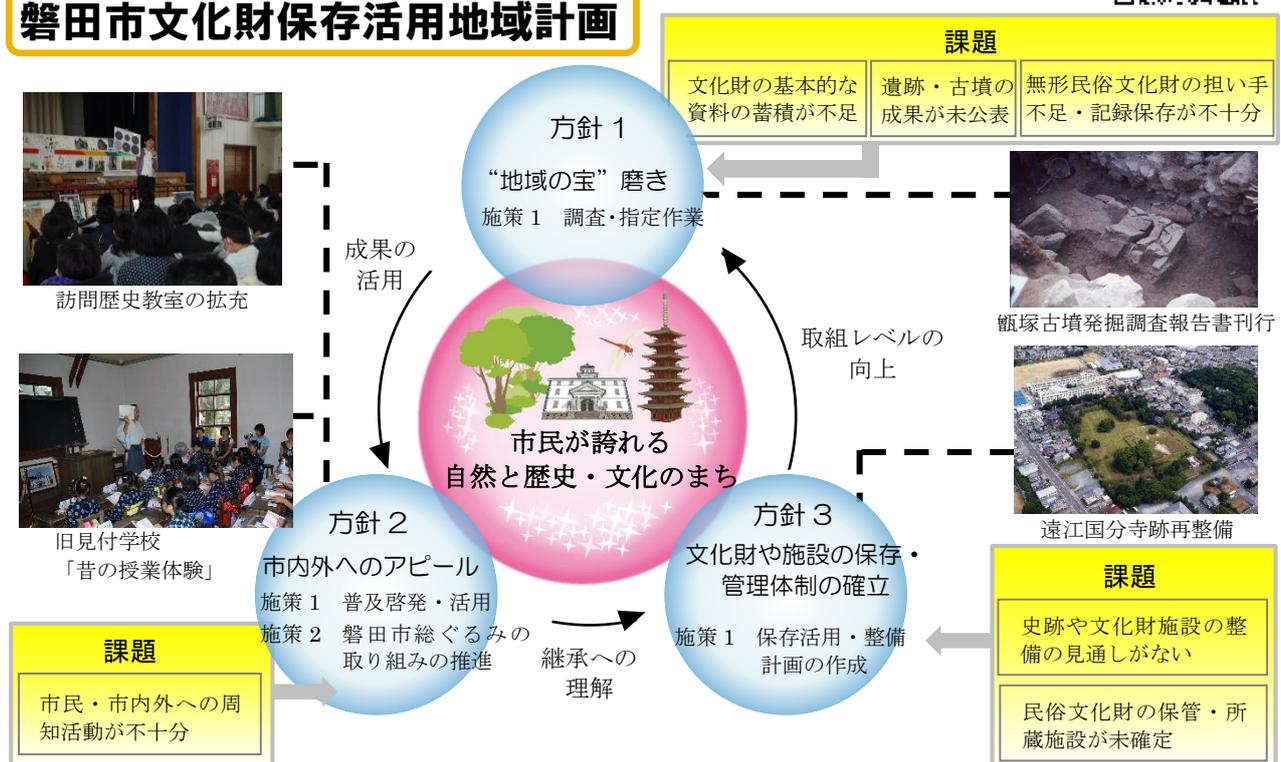
今後の取り組み

今後、令和11年までの9年間で、この計画に記載した105件の事業を実施し、行政だけでなく磐田市総ぐるみで文化財の保存活用を図っていきます。そして、「市民が誇れる自然と歴史・文化のまち」を目指します。

「磐田市文化財保存活用地域計画」はホームページで閲覧できます→



磐田市文化財保存活用地域計画



第2弾 開催中

歴史文書館 1階展示

行政資料からみた合併前と合併後～合併15年を振り返って～

「行政資料からみた合併前と合併後～合併15年を振り返って～」の第2弾として、「なぎの木会館」と「市民文化会館」をとりあげて開催しています。

市内二之宮にあった市民文化会館の壁に埋め込まれた「定礎」と「タイムカプセル」を展示しているほか、来年開館予定の文化会館「かたりあ」のパネルも展示します。

ぜひ、ご来場ください。



展示室の様子

開催場所 歴史文書館 1階展示室
(磐田市竜洋支所 1階東側)
開催期間 開催中～令和3年9月30日(木)
午前8時30分～午後5時
(入場は午後4時30分まで)
土・日・祝日休館
問い合わせ 歴史文書館 TEL:0538-66-9112



職員リレー コラム

磐田の縄文時代も見逃せない！！

渡邊 武文

今年の夏は卓球の水谷隼・伊藤美誠選手の混合ダブルスでの金メダル獲得に沸いた東京オリンピックが大きな話題となりましたが、他方、文化財の面では、「奄美大島、徳之島北部及び西表島」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産となったことも大きなニュースでした。

特に、私が後者について思ったのは、これは北日本の縄文遺跡の内容が優れているのはもちろんですが、日本列島全体の縄文時代全体が世界的に高い評価を得たことの証ではないかということです。というのも、縄文時代には各地でその土地の自然環境から四季に応じた食糧を得て、狩猟採集民としては世界的にも珍しく一年を通じた定住生活が営まれていました。その結果として、さまざまところで高度な文化が築かれていたのです。

このように考えると、地元の縄文時代の遺跡にもより興味が沸いてくるのではないのでしょうか。市内には、西貝塚(西貝)、石原貝塚(中泉)、見性寺貝塚(見付)など、遠江地方を代表する縄文遺跡がいくつか所在します。これらの貝塚からは汽水域に生息するシジミの貝殻がたくさん出土し、往時には水辺の近くに立地していたことがわかります。今とは異なった自然環境での大昔の暮らしをイメージしながら、ぜひ縄文遺跡を訪れていただきたいと思います。



編集後記 旧見付学校の展示を見て、現在使われている国語の教科書にQRコードが掲載されていることに驚きました。教科書の変遷を見ているだけでも面白かったです。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)

